

「田検中学校における創作劇の取組」

1 学校名

宇検村立田検中学校

2 学年・人数

中学校2年生（9人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成29年10月～11月 田検中学校体育館

（2）発表の日時・場所

平成29年10月28日（土） 田検中学校文化祭

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

（1）名称・時代

つしままるじけん
対馬丸事件・昭和19年8月22日（戦中）

（2）特徴

1944（昭和19）年7月サイパン島が陥落して以降、アメリカ軍機による本土空襲が本格化し、日本各地で疎開が本格化した。その中、同年8月21日、政府命令を受け、沖縄から疎開船対馬丸は、民間人及び那覇国民学校の児童、その介添者1780人あまりを乗せ出航。一路長崎を目指すも学童疎開輸送中にアメリカ海軍の潜水艦の攻撃を受け沈没し1500人前後の犠牲者を出した。多くの遺体が宇検村に流れ着き、地元住民により埋葬された。

5 保存会や地域との連携の具体

本年3月、宇検村船越海岸に対馬丸犠牲者の慰霊碑が建立され、また村生涯学習センターで対馬丸企画展が開催された。対馬丸事件は、社会科歴史の授業で触れられることも多いが、多くの生徒はその事実を詳しく知らない場合が多い。対馬丸の多くの犠牲者が宇検村に流れ着き、その埋葬にあたったということや生存者を助けた事実を初めて知る生徒も多かった。

本校では2年生の修学旅行で、長崎原爆投下を中心として平和学習に取り組んでおり、例年その成果を文化祭で発表している。現在は平和な宇検村だが、かつては戦争の悲劇の舞台になっていたという事実を知り、このことを本年の文化祭で発表し、多くの地域住民に対馬丸事件の悲劇を知って欲しいと考え、台本を作成し、創作劇として実演することとした。

6 活用の取組の工夫した点

社会科の学習の一環で、2・3年は全員、村生涯学習センターで行われた対馬丸企画展を見学し、事件の概要について学び、そのことについてレポートをまとめて、校内で発表した。

また地元紙の南海日日新聞で対馬丸事件を特集する記事を活用し、台本作成のための資料として活用した。

台本は単に事実を列挙するだけでなく、学童生徒の不安感や切迫感、生き残った方の苦悩を表すことができるよう工夫した。また演技指導に力を入れ、よりリアル感のある劇に仕上げるよう練習に取り組んだ。

7 取組の様子



【疎開を伝えられる様子】



【学童児童が甲板で語り合う様子】



【船から海に飛び込む様子】



【事件の真相を語れず苦悩する様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒から】

修学旅行で長崎に行った時、戦争の悲惨さを痛感して、文化祭の発表は、対馬丸をテーマにしようと考えた。対馬丸には子どもがたくさん乗っていた。戦争がどれだけ悲惨だったかということ伝えてかった。戦争が二度とあってはならないというメッセージをしっかりと受け継いでいきたいと思った。

【地域から】

当時は村にいなかったが、悲惨な状況は聞いている。子どもたちが対馬丸の悲劇を真剣に考え、題材に選んだのは素晴らしいことだと思う。

【教職員から】

子どもたちが準備や練習段階から真剣な態度で取り組む姿勢に感動した。緊張感のある姿勢で演技に臨み、当時の人々の苦悩がよく伝わってきた。涙する地域住民の方もおられた。この悲劇をこれからも伝えていきたいと思う。